

廃棄物資源循環学会平成27年度第2回セミナー

バイオマスのリサイクル3

～身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けて～

〔趣 旨〕

最近、廃棄物系バイオマスの中で多くを占める身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けて食品リサイクル法見直しの基本方針が策定されました。その内容は、食品廃棄物の発生抑制や事業系食品廃棄物のリサイクル率の高い目標設定に加えて、新たに身近な学校給食や家庭から発生する食品廃棄物のリサイクルの促進などの取組みや廃棄物処理法で規定されている市町村の一般廃棄物処理計画に適切に位置づけるなどが明記されました。これらを受けて、事業者、市町村などの関係者は、今後の具体化に向けた取組の加速化を図る必要があります。また、国ではバイオマスなどの再生可能エネルギー電気の導入拡大を図るため、固定価格買取制度(FIT)の創設、バイオマスの利活用の促進に向けて7府省が連携して、バイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強い「バイオマス産業都市の構築」を図ろうとする取組や市町村等における廃棄物系バイオマスのバイオガス化の導入を促進するための高率の交付金制度やバイオガス化導入マニュアルの策定検討、更には、今年度「バイオマス活用推進基本法」に基づく「バイオマス活用推進基本計画の見直し」に取組まれようとしています。このような廃棄物系バイオマスの利活用は、循環型社会の形成及び地球温暖化の防止の観点から重要であり加速化を図る必要があります。

このような状況の中で、本学会として、バイオマス利活用の事業の加速化に向けて、「バイオマスのリサイクル」の講演会をシリーズで開催してきましたが、今回はその第3回目として、「身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けて」をキーワードとして、第1部では農水省や環境省から食品リサイクルやバイオマス利活用政策や市町村の廃棄物処理政策の方向性、第2部では民間事業者・自治体から最近の具体的な事業化や技術開発の動向などについて紹介いただき、これらを受けて、第3部では身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けた具体化と今後のバイオマス活用推進の方向性について、日本や欧州における食品リサイクルや廃棄物政策の概要と今後の方向性などを紹介いただき、身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けた具体化と今後のバイオマス活用推進の方向性について意見交換を経て、今後の身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けた取組みの加速化や循環・低炭素化・農林業の活性化・地方創生などに寄与するバイオマスの利活用や推進基本計画の見直しに繋がるセミナーを目指す。

〔主 催〕 廃棄物資源循環学会 (協力：バイオマス系廃棄物部会)

〔協 賛〕 バイオガス事業推進協議会、全国バイオディーゼル燃料利用促進協議会

〔日 時〕 2015年8月21日(金) 13:00～17:00 (受付開始12:30)

〔会 場〕 日本大学理工学部駿河台校舎1号館2階121会議室(東京都千代田区駿河台1-8-14)

地図：<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/google.html>

〔交 通〕 JR御茶ノ水駅、聖橋口改札出口より徒歩3分

〔定 員〕 90名(Web事前申込みのみ。当日参加受付はしません)

〔参加費〕 企業の方 1万円 その他の方(官公庁、大学など) 2千円。

懇親会費 3千円

当日、受付にて申し受けます。

[プログラム]

< 13:00～ 13:10>開会の挨拶

(廃棄物資源循環学会会長) 松藤敏彦
(バイオガス事業推進協議会会長・南丹市長) 佐々木稔納

第1部：バイオマスリサイクルの戦略 座長 ((公財)京都高度技術研究所研究企画部部長) 中村一夫

<13:10～13:40> 食品リサイクルやバイオマス活用推進に向けて

(農水省バイオマス資源循環課バイオマス事業推進室長) 梶原義範

今回の食品リサイクル法見直し内容については、従来の事業系の食品廃棄物の発生抑制やリサイクルの促進に加えて、新たに、家庭系食品廃棄物についても発生抑制の促進や市町村による再生利用施設の整備を支援するとともに、地方公共団体による先進的な取組み事例の積極的な普及・展開を図っていく方向で見直された。この基本方針の今後の具体化の重要性や今年度の「バイオマス活用推進基本計画の見直しの方向性について紹介

<13:40～14:10> 環境省のバイオマスリサイクルの方向性

(環境省 廃棄物対策課長) 和田篤也

環境省の廃棄物の適正処理・リサイクルの今後の展開施策として、市町村等における廃棄物系バイオマスのバイオガス化の導入を促進するための高率の交付金制度やバイオガス化導入マニュアル策定に向けた取組みなど、低炭素社会・循環型社会を統合的に実現し災害に強い廃棄物循環システムの構築に向けた今後の環境省のバイオマスリサイクルの方向性などについて、温暖化対策や電力自由化などを踏まえて紹介

<14:10～14:30> 京都市の食品ロス削減をはじめとしたごみ減量の取組みについて

(京都市 環境政策局担当局長) 山田哲士

食品リサイクル法見直しなどを受けた食品廃棄物の発生抑制など2Rに向けた先進的な条例改正や家庭の生ごみなどバイオガス化するリサイクル機能を併設したクリーンセンターの整備計画など京都市の食品廃棄物の発生抑制やリサイクルに向けた取組みについて紹介

<14:30～14:40> 休憩

第2部：食品廃棄物のリサイクル促進に向けた先進的な事業化や実証事業の取り組み

座長 (岐阜大学名誉教授) 高見澤一裕

<14:40～15:10> ごみ焼却・バイオガス化複合施設「防府市クリーンセンター」のSPCによる運営事業

(川崎重工業(株)プラント・環境カンパニー理事) 菊池昭二美

DBO方式に採用した本施設の運用はSPCであるGPH(グリーンパーク防府)が行っている。事業立上げからこれまでの運営や運転事例について報告。また、ハイブリッド化による発電効率の高効率化やボイラー腐食低減効果の可能性など総合的な観点から紹介

<15:10～15:30> 南丹市のバイオガス化技術を活用した多様な取組と全国のバイオガス協議会の状況

(南丹市農林商工部部長) 渡邊春幸

バイオガス事業推進協議会の会長都市である南丹市のバイオガス活用の取り組みとして、乾式・湿式のバイオガス化技術を活用した食品廃棄物や家畜糞尿のリサイクルや消化液の活用など多様な取り組みとバイオガス事業推進協議会の活動状況について紹介

<15:30~15:50> 廃食用油などのバイオディーゼル燃料化事業の現状と最近の技術開発の動向
((公財) 京都高度技術研究所バイオマスエネルギー研究企画部部長) 中村一夫
食品廃棄物である廃食用油などのバイオディーゼル燃料化の全国での取り組み状況と新型車両に適合する新たなバイオ軽油実証事業などの最近の技術開発の動向について紹介

第3部：身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けた具体化と今後のバイオマス活用推進の方向性

座長 ((公財) 京都高度技術研究所研究部部長) 中村一夫

<15:50~16:20> 日本や欧州における食品リサイクルや廃棄物政策の概要と今後の方向性
(京都大学教授) 酒井伸一

日本や欧州における廃棄物循環政策や食品リサイクルの状況、更には、**2015 G7**エルマウ・サミットで示された資源効率性の向上や「もったいない」精神を共有し、3R関連政策の優先的な実行を通じた温暖化対策への貢献などに取組む「神戸3R行動計画」(Kobe 3R Action Plan)などの概要を報告。そこから見えてくる日本における、今後の廃棄物循環政策や食品リサイクルのあるべき姿について紹介

<16:20~16:55> 身近な食品廃棄物のリサイクルの促進に向けた具体化と今後の廃棄物循環政策や
バイオマス活用推進の方向性と意見交換
・コーディネーター：(京都大学教授) 酒井伸一

<16:55~17:00> 閉会の挨拶 (廃棄物資源循環学会副会長) 長田守弘

<17:15~19:00> 懇親会 2階食堂

参加要領

学会HPより申込みください。